

令和2年 1月 14 日

## 出張報告書

会派：未来

津山市議会議員 勝浦 正樹

出張期間	令和 2年1月 7日 ~ 令和 2年 1月 9日
出張先	徳島県勝浦郡上勝町、海部郡美波町
出張内容	・葉っぱビジネス、ゼロ・ウェイスト宣言の町現地視察（上勝町） ・関係人口創出（サテライトオフィス等）の先進地視察（美波町）
応対者	・(株)いろどり 代表取締役社長 横石知二 水澤莉奈ほか ・美波町政策推進課 主査 鍛冶淳也 (株)あわせ 神社純一郎ほか
概要	・高橋寿治、村上祐二、三浦ひらく、私の4名は相手先の時間都合により、車に4名同乗で出張した。なお、8日の帰路香川県に入った16時頃、瀬戸中央道が強風で通行止めになっていることが分かった。よって当日やむを得ず高松に宿泊した。  ・1月7日 10時30分 上勝町のJA（葉っぱ）の集荷場で(株)いろどりの水澤莉奈さんと合流 生産者高尾晴子（70才代）さん宅訪問 45品目に分別のゴミステーション、NPO法人ゼロ・ウェイストアカデミー（くるくる工房）訪問 前野るりさん応対 12時 昼食 カフェ・ポールスター（地元野菜にこだわり） はわさび生産者多田和幸氏宅訪問 生産者西蔭幸代（80才代）さん宅訪問 16時 彩山視察後、(株)いろどり社内にて、社長の講話  ・1月8日 11時 サテライトオフィス（マリンラボ）にて 美波町政策推進課 主査 鍛冶淳也氏、サテライトオフィス誘致推進員 小林真紀子さんから講話 12時 サテライトオフィス(株)あわせ 神社純一郎氏応対 16時 急遽、高松に宿泊決定  ・1月9日 高松から帰津  所感等は、別紙

## 1日目 上勝町

徳島県の中部に位置し、大部分が標高700m以上の山地に覆われ、急な斜面に棚田や段々畑の風景を残す山岳地域である。人口1600人に満たず、且つ高齢化率50%と過疎化が進む四国一の小さな町である。

視察へ向けた車中にて、上勝町での「葉っぱビジネス」についてのDVDを視聴し事前学習を行った。JA上勝では、水沢莉奈氏の出迎えを受け、生産者3件を訪問させていただき、商品を見学すると共に説明を受けた。生産者3名の皆さんは全員高齢者であるが、葉っぱビジネスを行う事で健康であり、生き生きとした生活を送れていると感じた。中でも一人の女性の方は、多くのTV・新聞などに取り上げられたことにより、国内外から多くの方が視察に来られるようになったことにより人との出会いに喜びを感じているとのことであった。町内の生産者は、156件である。

続いて上勝町では、2020年までに焼却や埋立てを行わず、ごみゼロにすることを目標に掲げ、日本で初めて「ゼロ・ウェイト」宣言を行っており、日比ヶ谷ゴミステーションの見学を行った。ゼロ・ウェイトの発端としては、広い町内に55もの集落が点在するため、ごみ収集車を購入して全集落を回り、償却を行うには多額の費用が掛かるため協議した結果、「リサイクルタウン計画」を策定し、ごみを減らす運動が始まった。現在13品目45分別でリサイクル率81%である。生ごみについては家庭用生ごみ処理機の購入補助を行っている。1世帯当たりの自己負担金は1万円であり普及率は97%となっている。以上のように全国に先駆けての取り組みに注目が集まり多くの視察希望がある。

津山市においてもごみの減量、分別については強化しているが、人口10万人の市が同じことを行う事ができるか、まずは地域単位での意識の醸成に期待をするべきである。

その後、株式会社いろどりを訪問し、横石知二社長より設立から現在までの歴史についての説明を受ける。1986年に「葉っぱビジネス」彩(いろどり)と名付けてスタートする。季節の葉や花・山菜などを栽培・出荷・販売している。現在では、年商2億600万円となっている。女性や高齢者でも取り組めることで話題であり中には、年商1000万円のおばあちゃんもおられるとのことである。高齢者が元気になったことで、町営の老人ホームがなくなったのは驚きであり、医療費の削減にもつながっているようである。事業主体、資本金1000万円、上勝町700万円・(株)いろどり300万円、330種類の葉っぱを扱っている。成功の要因としては、生産者、(株)いろどり、JA、市場の関係性それぞれがネットワークを結び、受発注情報や全国の市場状況を共有している点にある。その他にも成功の要因はあるが、これほどのシステムを作り上げた横石社長の説明をお聞きすると自信が漲っており、今後の将来性についても説得力があった。



## 2日目 美波町

美波町は、徳島県南部に位置する町であり、四国霊場の薬王寺に参拝する遍路で門前町は賑わい、室戸阿南海岸国定公園でもある海岸では、アカウミガメが産卵に訪れる自然豊かな海岸に面した町である。

人口 6719 人、世帯数 3275 世帯、高齢化率 45%超という少子高齢化及び過疎化に悩む典型的な地方自治体である。

徳島県では、県内全域への公衆無線 LAN の整備を平成 25 年に決めたことと、総務省の平成 28 年度補正予算「IOT サービス創出支援事業」が計上されたことのタイミングが重なり正式事業としてスタートしている。このことから、美波町では、ICT 関連企業の積極的な誘致を継続し、最新統計でサテライトオフィス開設数全国 1 位であり、徳島県の中でも最多となる 19 社が美波町に開設している。そして現在では、日本屈指の光ファイバー網を有し、驚くような山奥にも Wi-Fi が飛んでいて、限界集落の点在する神山町でも通信速度は東京都心の数倍のスピードを誇る。また、ケーブルテレビの普及率は 89.8%で 5 年連続全国 1 位でもある。

美波町では、南海トラフ地震が発生した場合、津波の第一波が到着するまでおよそ 10 分、津波の高さは徳島県内最高値となる 20.9M、全壊棟数、焼失棟数は 3 3 0 0 棟、死者は 2 4 0 0 人に上ると予想されており、避難タワーを建設するなどハード面の対策と同時に迅速かつ効率的な避難を実現するためのソフト面の対策として、サテライトオフィスを設置する IT 企業と産官学が共同事業体として、美波町の防災対策とを組み合わせ「止まらない通信網を活用した命をつなぐ減災推進事業」という事業を推進した。具体的には、スマートフォンや無線 IOT 装置を活用した自律分散型で耐障害性が高く且つ、低コストである通信網を町全体レベルで構築し携帯電話やインターネットの障害時にも通信可能にしている。

以上のように高齢化率が高く過疎化が進んでいることから町のそれぞれに何が必要であるか、また地域ならではの長所と短所を有効に施策に取り入れている所は、住民にとってわかりやすく見習うべきところである。小規模自治体であることが逆に、町民一体となったときに生まれる大きなパワーが感じられる魅力的な町であった。津山市においても、市の中心部から遠い周辺過疎地域等に応用できることがあるのではないかと思った。

